



発行所  
 太平山頂上鎮座  
 太平山三吉神社総本宮  
 宮司 田村 泰 教  
 秋田市広面字赤沼3の2  
 電 話 (018) 834-3443  
 F A X (018) 835-6864  
<http://www.miyoshi.or.jp>



平成27年 三吉梵天祭

宮 田 村 泰 教

ワールドカップ（W杯）での大健闘に加え、七人制では男女ともに来夏の五輪出場権を獲得。ラグビーが久し振りに注目を集めている。▽三十年余り前にも、好カードはスタンドが満席となる時期があった。しかし国際試合での惨敗もあり、急上昇したサッカー人気を横目にジリ貧となった。体格差、身体能力、練習場などの環境、育成力…。永遠に世界のトップレベルに近づくことはないと思われていた。▽W杯代表チームは年間一五〇日に亘り「真面目で忍耐力がある日本人でなければ絶対にできない」と言われるほどの過酷な合宿を行った。それが強豪南アフリカ戦勝利をして「奇跡ではなく必然と言わしめる程の強靱な肉体、スピード、技術、そして強い精神力を培った。大躍進を生んだ地道な鍛錬の積み重ねに頭が下がる。▽「ラグビーにヒーローはいらない」日本代表の外国人選手にもスポットを「一躍人気者となった五郎丸選手は語った。まさに「ワンフォーオール・オールフォーワン」の精神。高い自立心と尊い自己犠牲により、強い個と個が一丸となって勝利を迫及するチームへの変貌。五輪、そして四年後の日本開催のW杯での活躍を期待したい。

年末年始行事日程表

- 十二月三十一日（木）午後二時 師走大祓式
- 一月 一日（金）午前零時 歳旦祭
- 一月 十七日（日）午前六時 梵天祭
- 一月三十一日（日）午前十時 どんと祭

言挙げ 56  
ふるさと

# 故郷がなくなる

禰宜 佐々木 勉



戸菟追い えて来ました。益々活気が無くなりし彼の山々 ます。

小鮒釣りし 地震や津波、土砂崩れ等の自然災  
彼の川戸お 害での衰退であれば、住民の意気込  
なじみの唱 みや行政の手助けで復興も可能です  
歌『ふるさ が、住む人がいなくて寂れて行くの  
は余計深刻です。

と』の歌詞です。情景を思い浮かべただけで、懐かしく心暖まる思いがします。幼い頃は将に歌詞の如く野山に、川に友達と群だつて遊び廻っておりましたし、とにかく仲間が多かったです。終戦後間も無い頃だったの、一軒の家に二人三人は普通に子供がいた。食べる物が少ないので、野山にさがして猿の群れの如く歩き廻っていたものです。

それから半世紀が過ぎて、世情は大きく変わりました。所謂少子高齢化の波の到来です。子供の数が極端に少なくなり、田舎では子供を見る事さえ珍しくなったほどで、出合うのはお年寄りばかりです。小・中学校が廃校になったり統合になったりして、どんどん数が少なくなつてお見られなくなりました。当然の事

ながら氏神としての神社の維持管理も、菩提寺の存続も危うい事になって来ます。氏子や檀家の減少も又深刻な問題です。此の為にお祭りの衰退や、伝統行事の継承が難しくなつて来ます。そして最近になって此の様な現状が田舎だけで無く、都市部でも見られる様になったとの事です。少子高齢化の波は止め処無く押し寄せて来るのです。このままでは大都会だけに人が集中して、田舎も地方都市も寂れる一方です。この問題は社会現象と言うよりも、国の存亡として、政治的に考えなければならぬ事です。先ず結婚を促がして、安心して子育ての出来る社会を作る事が第一だと思ひます。子供が多くなれば社会も活気付きます。又郊外に公営の住宅を作り、近くの里山を整備する等して、自然と隣り合わせた環境で子育て出来たら良いと思ひます。子供が自然から学ぶものは、計り知れないものがあると思ひます。動植物と触れて、生命の大切さや尊さを学ぶ事も大切な事です。自然の中で成長すれば優しい心も育まれます。やがて成長して、その様な環境が心のふるさとになったら素晴らしい事でしょう。消え行くふるさとの大切さを新しい型で作り上げ、未来の子供達に、思い出となるふるさと環境を作つて行く事は、国の発展の為に大切な事です。



# 剣道神武館 二十周年記念式典

## 設立二十周年の御礼

神武館館長 田村 泰 教

平成七年、武道場完成とともに当館が設立されてから、お陰様をもちまして二十年の佳節を迎えることができました。

平素よりご厚情を賜わっております剣道連盟・道場連盟・関係各道場様、また開館当初からご指導頂いております和田満春先生、熱心に青少年の指導を頂いている菅野正直先生を始めとする歴代の先生方、そして佐々木敏行後援会会長を始めとする代々の保護者・関係者の皆さまの真摯なご尽力に衷心より厚く御礼を申し上げます。

教育者でもあった先代田村泰蔵宮司の「青少年の健全育成に貢献できる施設を持ちたい」との一念から建てられた武道場で、日本の心を守り伝える武道剣道の稽古が行われていることは誠に意義深いことであるとともに、剣道以外にも空手・レスリング・ボイススカウト等の団体にもご利用頂き、境内に日々子供たちの元気な声が響き渡っていることはこの上ない喜びでもございます。

未来を担う子供達は社会の宝であり、特に少子化が進む秋田では貴重な存在です。二十年を経て徐々に社会へと巣立っていくOBの皆さまが、神武館で培った精神を忘れずにそれぞれの立場で奮闘活躍頂くことを心より願っております。

道場の門下生数や各種大会の成績などは時々により変遷いたしますが、当館は勝利至上主義ではなく、これからもあくまで子供達の健やかなる心身の鍛錬・成長の場、また社会に貢献できる人材育成の場として、今後もその役割・使命をしっかりと果たしていきけるよう、より一層努力を重ねて参りたいと存じます。

どうか変わらぬご指導ご鞭撻の程、また末永いご支援ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。二十周年の御礼といたします。

## 神武館二十周年を記念して

師範 和田 満 春

先代、田村泰造宮司の心ざしのもと、神武館は本年二十周年を迎えることになりました。この間、皆様には絶大なるご支援を賜り御礼を申し上げます。

さて、十周年を迎えた平成十七年以降、指導陣は佐藤五郎、和田満春、根田芳弘、菅野正直の四名体制でスタートしたものの、惜しむらくはこの間、佐藤五郎先生、根田芳弘先生が鬼籍に入られました。お二人の先生には少年部、成人部ともに大変お世話になり、ご指導を頂きました。改めて感謝申し上げ哀悼の誠を捧げたいと思います。

今ここに二十周年の佳節を迎え、さらなる発展を願ひ今後とも先代宮司の念願でありました「青少年の健全育成」の原点に返り、皆様の期待に副うべく指導陣としても改めて気を引き締めて取り組んでいきたいとおもいます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

尚、平成七年の当道場の発足に当たっては道場名「神武館」は先代宮司が命名し、その目指すところの旗印の「神武威徳」は、大正時代の武術家山田次朗吉の著書「剣道集義」の中から、「身に神武の威徳を備えざるべからず。威徳備われば人能く心服す。故に向かう所敵なし」の一説から引用しました。そして神社ゆかりの書家故佐々木秀堂氏に揮毫をいただき現在の旗が完成したことを申し添えます。

今後とも皆様のご支援、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。



雄信館、奥檜館、勝平道場、日新道場をお招きしての合同練成会



祝賀会



記念式典

# みよしスケッチ



多くのお子さんと境内は賑わいました。

## 七五三詣



佐藤俊郎氏(にかほ市)が優勝されました。

## 三吉節全国大会 (九月十七日)



神人奉仕により、御神体を奥宮より里宮に遷御いたしました。

## 閉山祭 (九月十七日)



愛着ある人形のお焚き上げ神事を行いました。

## 人形感謝祭 (十月一日)



古い印鑑や表札を供養し、塚に納めました。

## 印章供養祭 (十月一日)



## 太平山初冠雪

太平山は、十一月二十五日に初冠雪となりました。また、本格的な降雪時期を迎える前の十一月九日には、山頂の小屋も完全に閉鎖いたしました。明年五月の開所を迎えるまで、山は雪に包まれた静寂な世界となります。

# みよしスケッチ



本年の村梵天奉納について話し合いを行いました。

村梵天代表者懇談会 十一月六日



補陀寺・添川神明社等をまわり、約十七キロを歩きました。

歩こう会 十月十五日



明年の神宮大麻、曆の頒布始祭を行いました。

大麻・曆頒布始祭 十一月十四日



梵天祭の作業について話し合いを行いました。

自衛警備隊総会 十一月十二日



男鹿市潟上市南秋田郡剣道連盟様より居合の演武を頂きました。

奉納演武 十一月十九日



明年の三吉梵天祭の打合せを行いました。

梵天打合せ会 十一月十日



当社の三吉梵天祭の写真が秋田市プレミアム付き商品券のデザインに採用されました。尚、同券は好評につき即日完売いたしました。

梵天がデザインに

## 厄年・年祝いのご案内

厄年のお祝いや還暦・古稀などの年祝いを迎えられた方々の無病息災・除災招福のご祈願祭を随時行っております。(団体様やホテル等での出張祈願をご希望の方はお気軽にお問合せ下さい。)

### 平成 28 年 (丙申) 厄年・年祝い一覧

生まれた年	えと	男性	女性	年齢(かぞえ)
大正 7 年生	午 (うま)	白 寿 (はくじゅ)		99歳
昭和 2 年生	卯 (うさぎ)	卒 寿 (そつじゅ)		90歳
昭和 4 年生	巳 (へび)	米 寿 (べいじゅ)		88歳
昭和12年生	丑 (うし)	傘 寿 (さんじゅ)		80歳
昭和15年生	辰 (たつ)	喜 寿 (きじゅ)		77歳
昭和22年生	亥 (いのしし)	古 稀 (こ き)		70歳
昭和30年生	未 (ひつじ)	後 厄		62歳
昭和31年生	申 (さる)	還 暦 (かんれき 大厄)		61歳
昭和32年生	酉 (とり)	前 厄		60歳
昭和49年生	寅 (とら)	後 厄		43歳
昭和50年生	卯 (うさぎ)	大 厄	厄	42歳
昭和51年生	辰 (たつ)	前 厄		41歳
昭和54年生	未 (ひつじ)		後 厄	38歳
昭和55年生	申 (さる)	厄	大 厄	37歳
昭和56年生	酉 (とり)		前 厄	36歳
昭和58年生	亥 (いのしし)		後 厄	34歳
昭和59年生	子 (ねずみ)	厄	大 厄	33歳
昭和60年生	丑 (うし)		前 厄	32歳
平成 3 年生	未 (ひつじ)	後 厄		26歳
平成 4 年生	申 (さる)	大 厄	厄	25歳
平成 5 年生	酉 (とり)	前 厄		24歳
平成 8 年生	子 (ねずみ)	成 人		満20歳
平成 9 年生	丑 (うし)		後 厄	20歳
平成10年生	寅 (とら)	厄	大 厄	19歳
平成11年生	卯 (うさぎ)		前 厄	18歳
平成16年生	申 (さる)	十三参り		13歳

※年齢は数え年ですので、誕生日にかかわらず  
新年を迎えると一つ年をとりませす。



# どんと祭

1月31日  
(日)

午前10時～午後3時

お正月の松飾りや縁起物、また古い神札・お守りなどをお焚き上げいたします。当日ご都合の悪い方は、予め所定の位置にお納め下さい。

～書籍やぬいぐるみ・置物など神社にご縁のない物や不燃物はお預かりできません。

- 人形類は 10 月の人形感謝祭にお持ち下さい。
- 環境への配慮からビニール袋等は外してお納め下さい。

## 平成28年 上半期主な祭典・行事予定

1月1日(金)	午前零時	歳旦祭	国家の安泰と皆様のご安寧をお祈りいたします
1月17日(日)	神事 午前6時 奉納 午前10時~正午	梵天祭	力の神である《三吉霊神》にあやかろうと威勢良く先陣を争い梵天を奉納する秋田の冬の伝統行事(8頁参照)
1月31日(日)	午前10時	どんと祭	古くなったお札、お守、縁起物をお焚上げいたします(4頁参照)
2月3日(水)	午前10時	節分祭	福豆をまき供え、除災招福を祈ります
2月11日(木)	午前9時	紀元祭	神武天皇建国の偉業を偲び、日本の繁栄と世界平和を祈念いたします
5月7日(土)	午後6時	春季例大祭宵宮祭	五穀豊穡や家内安全、各種産業の発展を祈る春の例大祭
5月8日(日)	午前11時	春季例大祭当日祭	
6月30日(木)	午後3時	夏越の大祓	上半期の節目に当たり、自分の罪けがれを祓い清めます

### 師走の大祓式

この一年の間、知らず知らずの内に自分の身に積もった罪けがれを、形代(かたしろ)に託して祓い清め、心身ともに清々しく新年を迎えるための節目の神事でございます。  
ご多忙の折とは存じますが、是非ご参列下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

一、日時 平成二十七年十二月三十一日(木) 午後二時  
一、於 神社拝殿

○ご都合のつかない方は、形代でご自身の身を祓い清め、随時ご持参又はご郵送下されば三十一日当日神事ご奉仕の上、御神符をお送りいたします。

○当日ご参列の方は、参列できないご家族の方の形代をご持参下さい。



※形代(かたしろ)は神社にございますので、必要な数をご連絡下さい。

人に押し負け大きらい

厳寒の一月、雪国の静寂を打ち破って

藤田嗣治「秋田の行事」にも描かれた

秋田の冬の風物詩「ぼんでん」が行われる。

力の神、勝負の神を祀る、太平山三吉神社の

例祭に奉納される梵天は八十本余り。

意匠をこらした梵天は、數十人の男たちを従え、

雪の町を練った後、神社に集結する。

「人に押し負け大きらい」「三吉節も高らかに、

法螺貝と「ジョヤサ」の掛け声が

勇ましく響くなか、万を越す観衆の前へ。

十余りの梵天が踊り乱れ、

男たちは波となつて激しくもみ合う。

一年の幸を願う熱い祭は、今年も「足早い春を呼ぶ。

秋田市赤沼

# 三吉 梵天祭

ぼんでん

平成28年

## 1月17日(日曜)

◎神事：午前6時～

◎奉納時間：午前10時～正午

こども梵天/午前10時～

梵天奉納/午前11時～

